

## 臨床報告

## 昭和大学歯科病院における口腔がん無料相談の実績

勝田 秀行, 曾我 大輔, 吉濱 泰斗, 近藤 誠二  
羽鳥 仁志, 新谷 悟

**要旨:** 昭和大学歯科病院では 2007 年 10 月より, 口腔外科外来において口腔粘膜などに不安をもつ人を対象とした口腔がん無料相談を開始した. 予約制で毎週土曜日に相談を受けた. 今回, 2007 年 10 月から 2011 年 9 月までの 4 年間に相談目的に当院へ来院した 264 名に対して, 年度別・性別・年齢別相談者数, および臨床診断, 相談者の居住地域, 口腔がん無料相談を知った媒体に関して検討を行ったので報告する. 1 年間の相談患者数は平均 66 名であり, 臨床診断としては, 口内炎が最も多く, 次いで白板症, 良性腫瘍, 口蓋・下顎隆起, 歯科疾患と続き, 新たに 2 名の口腔がん患者を発見した.

日本において 1 年間に新たにがんと診断される人数は, 男性で 39.1 万人, 女性で 28.5 万人であり, 生涯でがん罹患する確率は, 男性で 54%, 女性で 41% である. 一年間に口腔・咽頭がん罹患する人数は, 男性で 11.9 人, 女性で 5.3 人となっており<sup>1)</sup>, 口腔・咽頭がんの約半数が口腔がんであることから, 口腔・咽頭がん罹患する割合は決して高くない<sup>2)</sup>. しかし, 口腔は, 摂食・嚥下・構音さらには顔貌に関与する器官であり, 発見が遅れることにより, 治療後に大きな機能障害を生じることもある. さらに, 口腔がんの約 60% を占める舌がん<sup>2)</sup>での 5 年生存率は, Stage I で 80~90%, Stage II では 70% 台, Stage III では 40~60%, Stage IV では 30~40% 台であることから<sup>3)</sup>, 早期発見・早期治療が重要である. また, 口腔粘膜の疼痛や発赤・ただれ, 潰瘍などの口腔がんの初発症状<sup>4)</sup>が生じるも, 受診する医療機関や診療科がわからず放置している患者もいる. そのため, 口腔がんの早期発見のみではなく啓発を目的として, 昭和大学歯科病院では 2007 年 10 月より口腔がん無料相談を開始し, 予約制で毎週土曜日にひとり 30 分間以内で相談に対応した. 今回, 2011 年 9 月までの 4 年間に当院で相談を行った患者 264 名に対して検討を行った.

## 対象ならびに方法

口腔がん無料相談を目的に昭和大学歯科病院に来院され口腔外科の担当医が口腔内および頸部の視診・触診を実施した 264 名に対して, 年度別・性別・年齢別相談者数, および臨床診断に関して検討した. さらに, 相談者の居住地域に関しては, 2008 年 10 月から 2011 年 9

月に来院された相談者 209 名に対して, 口腔がん無料相談を知った媒体に関しては, 2010 年 11 月から 2011 年 9 月までの相談者 49 名に対して検討した.

## 結 果

## 相談状況

4 年間で相談者は合計 264 名であり, 1 年間の平均相談者数は 66 名であった. 年度ごとの相談者数は, 2007 年 10 月から 2008 年 9 月までは 55 名, 2008 年 10 月からは 100 名, 2009 年 10 月からは 57 名, 2010 年 10 月からは 52 名であった (Fig. 1). 年度ごとの相談者数は毎年約 50 名であったが, 2008 年度のみが 100 名と他年度の約 2 倍であった. 性別に関しては, 男性 98 名, 女性 166 名と女性が多いという特徴があり, 各年度とも同様であった. 相談者の年齢は, 16~85 歳であり, 平均年齢は 55.6 歳であった.

## 臨床診断

臨床診断としては重複を含み 275 の病名が適応された. Fig. 2 で示すように, 口腔粘膜疾患である白板症が 18 名 (6%), 口腔扁平苔癬 10 名 (4%), 口腔カンジダ症 6 名 (2%), 口内炎 35 名 (13%) であり, 新たに発見した口腔がんは 2 名 (1%), 他施設において口腔がんの確定診断を得た上でのセカンドオピニオン目的の相談者は 5 名 (2%) であった. 他は, 良性腫瘍 18 名 (6%), 口蓋・下顎隆起 18 名 (6%), 齲蝕や歯周炎などの歯科疾患 18 名 (6%), その他の疾患 32 名 (12%) であり, 異常所見なしは 106 名 (39%) であった.

### 口腔がん 7 例の内訳

口腔がん無料相談により，新たに口腔がんを疑った 2 名に関しては，当科で確定診断を得た上で加療を行った．具体的には，Table 1 で示すように舌に疼痛があり舌がんではないかと不安になり来院した舌がん患者（T2N0M0，Stage II，扁平上皮癌）と舌のできものが治らないため来院した舌がん患者（T1N0M0，Stage I，扁平上皮癌）であった．さらに，他施設で口腔がんの確定診断を得た上で，セカンドオピニオンを目的とした相談者は 5 名であり，苦痛を生じず，かつ治療後に機能障害を生じない治療に関して相談された 1 名（Table 1 口腔がん（セカンドオピニオン）の 3 に相当）には治療の必要性を説明したが，確定診断を得た病院の再受診もせず

当院での治療も希望されなかった．その他の 4 人の相談者は，相談後通院中または治療中の病院において治療継続となった．

### 相談者居住地域

2008 年 10 月から 2011 年 9 月に来院された相談者 209 名の居住地域を調べると，Fig. 3 で示すように東京都が 125 名（60%），首都圏の神奈川県，千葉県，埼玉県は 65 名の 31%，その他の地域は 8 名（4%），不明が 11 名（5%）であった．当院を受診することが多い東京都大田区，品川区，目黒区，世田谷区および神奈川県川崎市は 68 名（33%）であり，近隣地域から来院される割合が低く，東京 23 区内や横浜市など診療で受診することは少ないが 1 時間程度で来院可能な地域が多いという特徴

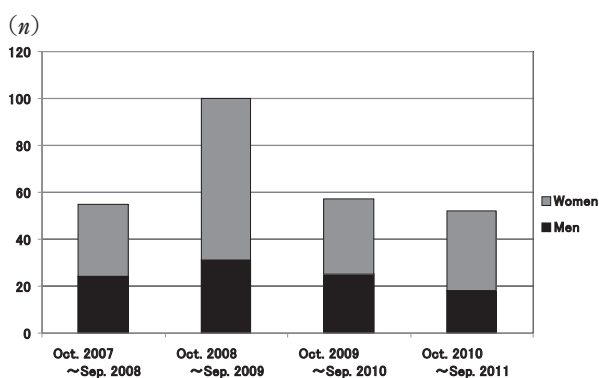


Fig. 1 The number of patients visiting free oral cancer consultation in the Showa University Dental Hospital.

Table 1 Two cases of oral cancer and five cases of oral cancer for the purpose of obtaining second opinion.

Oral cancer	
1	Cancer of the tongue (pain of the tongue)
2	Cancer of the tongue (intractable tumor of the tongue)
Oral cancer (second opinion)	
1	Cancer of the hard palate
2	Recurrent cancer of the mandibular gingiva
3	Cancer of the tongue
4	Recurrent cancer of the buccal mucosa
5	Post operative cancer of the tongue and cervical lymph node metastasis

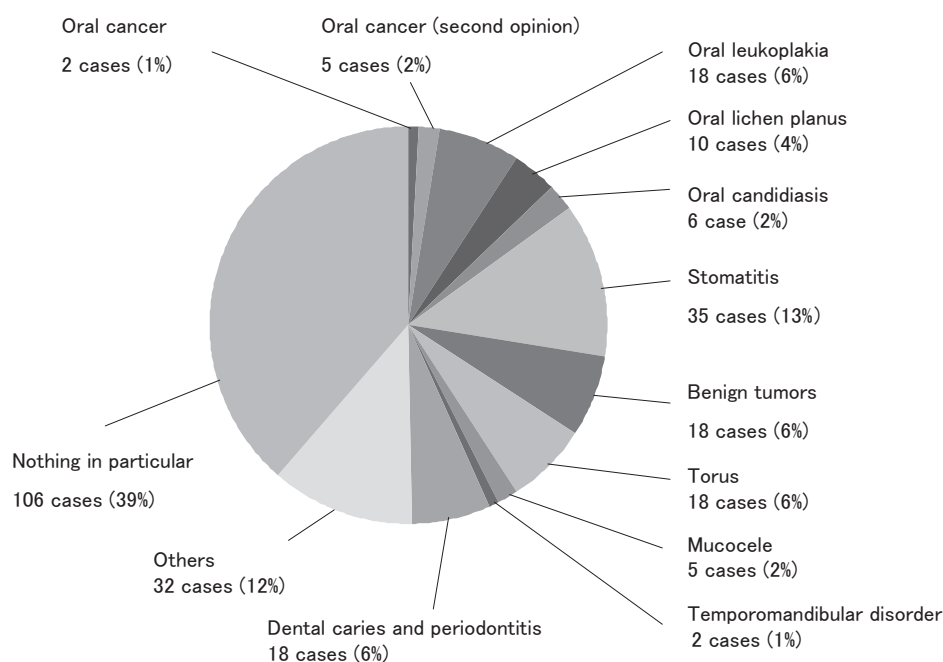


Fig. 2 Clinical diagnosis.

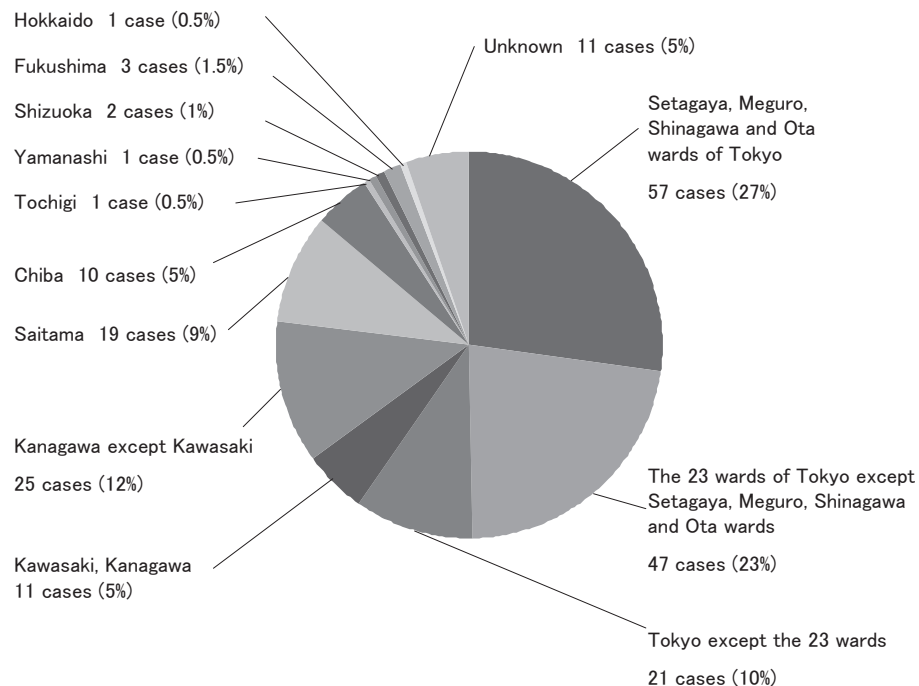


Fig. 3 The addresses of patients visiting free oral cancer consultation in the Showa University Dental Hospital.

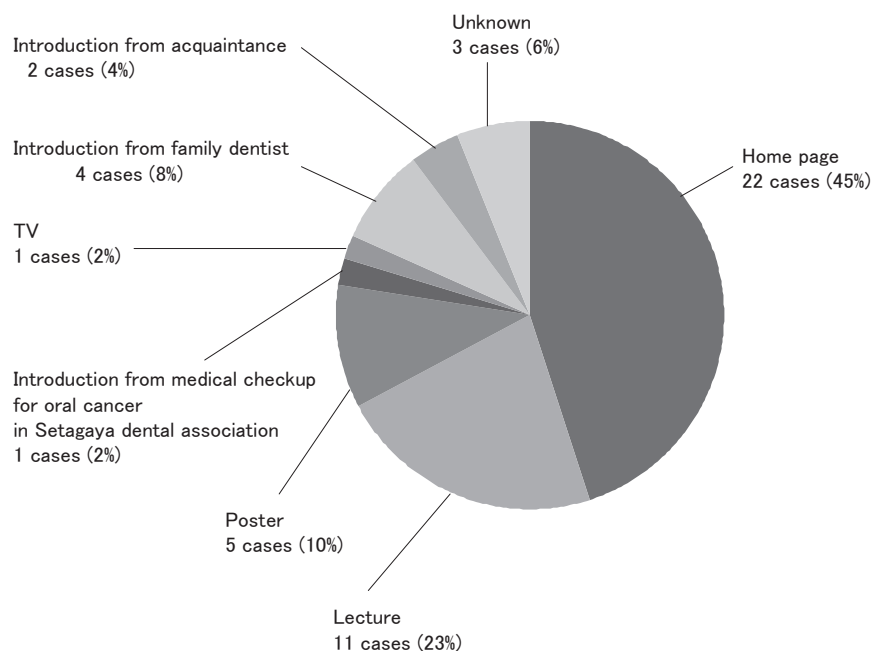


Fig. 4 How to obtain the information of free oral cancer consultation in the Showa University Dental Hospital.

があった。

#### 口腔がん無料相談を知った媒体

昭和大学歯科病院無料口腔がん相談の紹介は、1. 当院当科ホームページ、2. 当科歯科医師による講演会、3. ポスターの掲示 (1). 当院掲示板、(2). 世田谷区歯科医師会口腔衛生センター掲示板、で行っていたため、2010年11月から2011年9月まで相談者49名に対して口腔がん無料相談を知った媒体を調査した。Fig. 4で示

すように、ホームページが22名 (45%)、講演会が11名 (23%)、ポスターが5名 (10%) であり、インターネットの普及によりホームページをきっかけとした相談が多いという特徴を認めた。

#### 考 察

##### 臨床診断

臨床診断としては、相談に訪れて発見した口腔がん2

名（1%）以外にも白板症や口腔扁平苔癬などの前がん病変や前がん状態が28名（10%）おり、口腔がんの早期発見としての役割は果たせたと考えられた。口腔がん、白板症、口腔扁平苔癬さらには口腔カンジダ症などの口腔粘膜疾患や線維腫や乳頭腫などの良性腫瘍に対しては精査の必要性を説明し、専門の医療機関への受診を促した。口蓋・下顎隆起や舌有郭乳頭や葉状乳頭などの異常所見を認めない相談者に対しては、適切な説明を行い、不安を解消できたと考えられた。一方で、口腔がんの相談を目的にしていたにもかかわらず、舌痛症などの不定愁訴を持つ相談者がインターネットにより当ホームページを検索し来院することも多かった。さらに、慢性根尖性歯周炎や慢性辺縁性歯周炎などによる内歯瘻を口腔がんと考え来院した患者も多く、これらの相談者に対して歯科医院での治療の必要性を説明した。口腔内に症状が生じた際にのみ歯科医院を受診する相談者が多数来院したため、かかりつけ歯科医での定期受診の重要性を説明した。

#### 悪性腫瘍

口腔がん無料相談を実施した4年間で合計264名の相談を受け、新たに2名の口腔がんを発見した。2000年以降の文献で渉猟し得た他の口腔がんスクリーニングでの発見率は、岡山県口腔がん検診では0%（0/323名）<sup>5)</sup>、千葉県習志野市口腔癌検診では0%（0/718名）<sup>6)</sup>、千葉県市原市口腔がん検診では0%（0/1047名）<sup>7)</sup>、千葉県千葉市口腔癌検診では0.1%（3/3429名）<sup>8)</sup>、千葉県印旛郡市歯科医師会佐倉地区口腔がん検診では0.2%（2/1062名）<sup>9)</sup>であった。これらと比較すると当院口腔がん無料相談での発見率は1%（2/264名）と高かったが、口腔がんではないかと考え自発的に来院する相談者が対象であったからと考える。さらに、他施設で口腔がんの確定診断を得た後、インターネット等により治療方針に関して検索を行いセカンドオピニオン目的に来院された相談者にも標準的な口腔がん治療に関して説明し、治療を拒否されていた1名以外、確定診断を得た施設において治療を継続された。他施設において口腔がんと確定診断され治療方針に関して説明を受けているが、患者自身や家族がこの治療方針が標準的であるのかわからない相談者に対して、不安を解消する役割も果たせたと考えられた。

#### 来院地域および口腔がん相談を知った媒体

当院は、東京都大田区、目黒区、品川区、世田谷区、

および神奈川県川崎市からの受診が多い特徴がある。しかし、口腔がん無料相談を目的に来院した相談者の居住地域は、上記地域が33%のみであり、東京23区内や横浜市など診療では受診することが少ない地域からも多数来院した。さらに、東京都以外の首都圏である千葉県、埼玉県から来院される相談者も少なくはなかった。少数ながらも福島県や静岡県など遠方から来院する相談者もいた。口腔がん無料相談を知った媒体も、当科のホームページが全体の45%と多かった。診療では近隣の歯科医院からの紹介が多いのに対して、口腔がん無料相談では口腔がんに不安を感じている方がインターネットを検索し、近隣の地域以外からも来院する傾向が認められた。

#### 文 献

- 1) がんの統計'10, 財団法人がん研究振興財団.
- 2) Report of head and neck cancer registry of Japan: Clinical statistics of registered patients, 2002 Jpn J Head and Neck Cancer, **32**: 1-34, 2006
- 3) 松浦一登, 林 隆一, 海老原敏, 斎川雅久, 山崎光男, 門田伸也, 清野洋一, 木股敬裕, 桜庭 実, 菱沼茂之: 舌扁平上皮癌一次治療症例(274例)の手術治療成績. 頭頸部癌, **30**: 550-557, 2004.
- 4) 天笠光男, 作田正義, 立川哲彦, 道 健一, 岡田憲彦: 口腔癌の早期診断アトラス. 医歯薬出版, 東京, 2008
- 5) 水川展吉, 佐々木朗, 大杉篤生, 目瀬 浩, 志茂 剛, 金田祥弘, 西山明慶, 吉濱泰斗, 鳩本清美, 沢木聖子, 山近英樹, 植野高章, 高木 慎, 菅原利夫: 岡山県における口腔がん検診(第2報). 岡山歯誌, **26**: 21-24, 2007
- 6) 大野啓介, 山本信治, 野村武史, 薬師寺孝, 片倉 朗, 内山健志, 高野伸夫, 柴原孝彦: 習志野市歯科医師会と行っている口腔癌検診 10年間の検討. 歯科学報, **109**: 270-275, 2009
- 7) 菅原圭亮, 高橋真言, 河地 誉, 池田千早, 薬師寺孝, 山本信治, 野村武史, 高野伸夫, 柴原孝彦, 片倉 朗: 市原市における行政主導の口腔がん検診. 老年歯学, **25**: 340-346, 2010
- 8) 柴原孝彦, 野村武史, 山内智博, 山本信治, 薬師寺孝, 菅原圭亮, 高野伸夫, 片倉 朗: 口腔癌検診は有効か?—地域歯科医師会と行ってきた20年間の実績—. 頭頸部癌, **37**: 381-385, 2011
- 9) 野村武史, 笠原清弘, 高木 亮, 山本信治, 菅原圭亮, 作間 巧, 片倉 朗, 高野伸夫, 柴原孝彦: 印旛郡歯科医師会佐倉地区と東京歯科大学千葉病棟の11年間の歩み—口腔がん検診の現状と将来展望—. 歯科学報, **109**: 362-368, 2009

## Track Record of Free Oral Cancer Consultation in the Showa University Dental Hospital

Hideyuki KATSUTA, Daisuke SOGA, Yasuto YOSHIHAMA, Seiji KONDOU,  
Masashi HATORI and Satoru SHINTANI

*Department of Oral & Maxillofacial Surgery, Showa University School of Dentistry  
2-1-1 Kitasenzoku, Ohta-ku, Tokyo, 145-8515 Japan*

(Received August 2, 2012 ; Accepted for publication January 7, 2013)

**Abstract** : In the Showa University Dental Hospital, we start free oral cancer consultation for those who have uneasiness in suffering from the oral cancer at oral and maxillofacial surgery visitors from October, 2007.

It responds to the consultation on Saturday by the reservation system every week.

It is the clinical statistics for 264 patients that consulted our hospital for the past four years from 2007 to 2011. We reported it about the number of patients according to by year, sex and age, the clinical diagnosis, the address, and the medium that got to know free oral cancer consultation. The average number of patients who visit free oral cancer consultation was 64 per years, and the clinical diagnosis for consultations was stomatitis. It followed with leukoplalia, benign tumor, palatal and mandibular torus and dentistry disease next to it. Oral cancer was diagnosed in 2 patients.

**Key words** : oral cancer, consultation.